

民俗資料館だより

第16号 2009. 3. 31

発行 加茂市民俗資料館 電話 0256-52-0089
住所 加茂市大字加茂229-1 FAX 0256-52-0089

加茂市の文化財

加茂市の文化財は平成19年度に新たに7件の指定があり、加茂市指定文化財は45件、新潟県指定文化財が4件になりました。新たに指定されたうちの山城の2件を紹介いたします。

1. 高柳城址（加茂市大字高柳字城下1013）

別名「御殿山城」「要害山城」と呼び、宝蔵山の西にのびた標高225メートルの尾根にあり、高柳・大谷地区を見下ろす位置にあり、村松から下田へぬける街道をおさえる交通の要衝である。

この城は全体的に小振りであるが、本丸の他、^{くるわ}曲輪や^{どるい}土塁や^{よこぼり}横堀・^{たてぼり}連続竪堀・^{うねがた}畝形竪堀・^{ますがた}枡形虎口等をコンパクトに配置している戦国時代末期の山城である。

天文11年（1542）三条長尾氏の臣、北川大学がこの城を占拠したが、上杉謙信の臣野守主馬等に攻略されその後は盛岡五郎左衛門の居城となり、御館の乱の収束後、ほどなく廃城となったらしい。

2. 薬師山城址（加茂市黒水字岩野349）

「薬師山城」は別名「黒水城」「虚空蔵城」とも呼び、加茂川の右岸に屹立する標高189メートルの薬師山上にある山城で、村松から長谷をとおり、下田・上条への道を押さえる交通の要地である。

この城は大形の山城とは言えないが、七谷地区に展開する山城の中では、中心的な機能を持ち、本丸とそれに続く曲輪は大形の建物の配置が可能で、本丸のすぐ北側の曲輪は全周が囲み曲輪の土塁となっている、これは、鉄砲の伝来以降に発達したものであり、各曲輪の出入り口は、枡形・虎口などがあり、戦国時代末期の頃の遺構が多い。

この城の城主・歴史など不明であるが、「温古の栞」には、長尾為景の反乱のおり、城主長谷修理は守護上杉房能に加勢し、その後為景に追われて、出羽へ退去したという。



薬師山城址

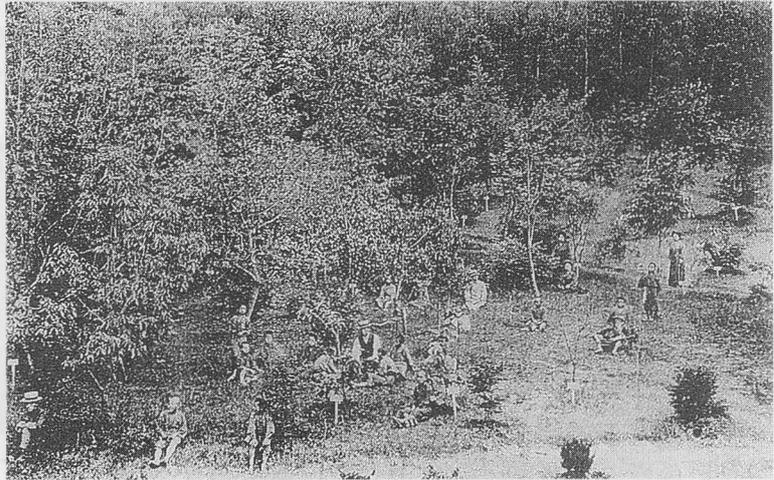


高柳城址

七谷小学校の森林公園

加茂市文化財調査審議委員会委員 中野保栄

100年を迎えた「つつじヶ丘」は、加茂市立七谷小学校校舎の裏山にある森林公園である。なだらかな山林の斜面の一部を切り開いた、約871坪（2,876㎡）の面積をもった公園です。

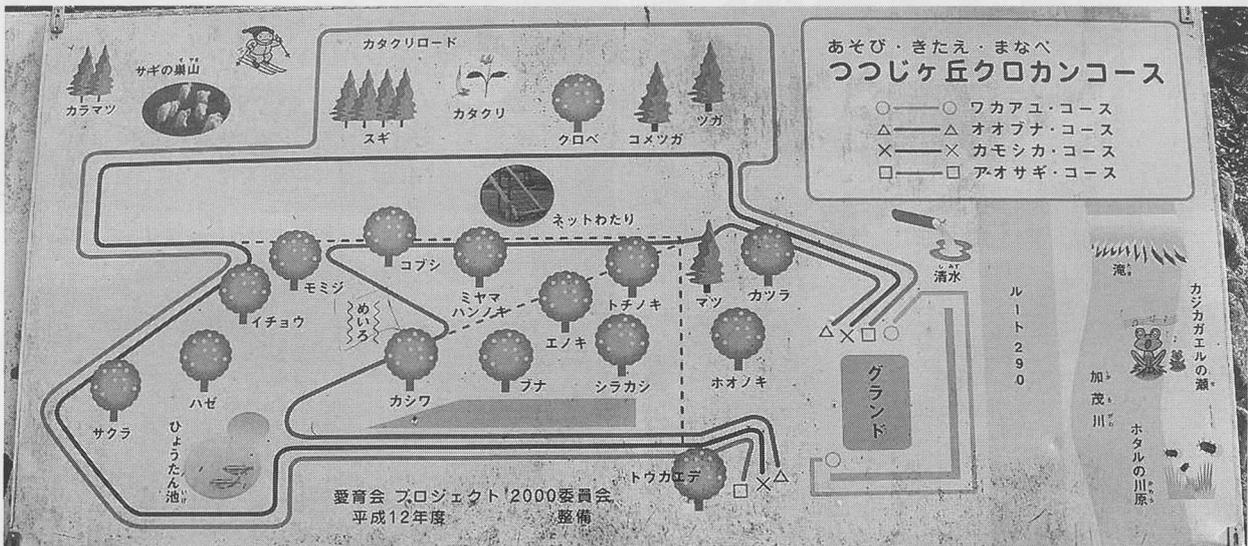


七谷尋常高等小学校附属森林植物園

この公園ができたのは明治43年（1910年）のことである。明治政府は明治43年2月25日に町村制施行20周年を記念して、全国から模範的な町村31を選定、内務大臣の辞令書に添えて金員を

授与した。これがいわゆる模範村であり、七谷村はその一つに選ばれたのでした。村では「選奨記念事業」を計画し、そのうちの一つを森林公園の造成に当てられたのでした。この公園の選定や配置などの基本設計は、当時加茂農林学校の林業主任の後藤教諭に委託されました。教諭は「明治神宮の森」の設計に当たった東京帝国大学教授本多静六林学博士の指導を受けたとされています。博士は植物園の樹種50種を寄附している。この頃の公園の名は「七谷尋常高等小学校附属森林植物園」と呼ばれていた。苗木から樹木に育つ間、村の人達の手助けを借りたり、農林学校の生徒による奉仕活動を加え乍ら、大切に手入れを続けてこられたとのことです。

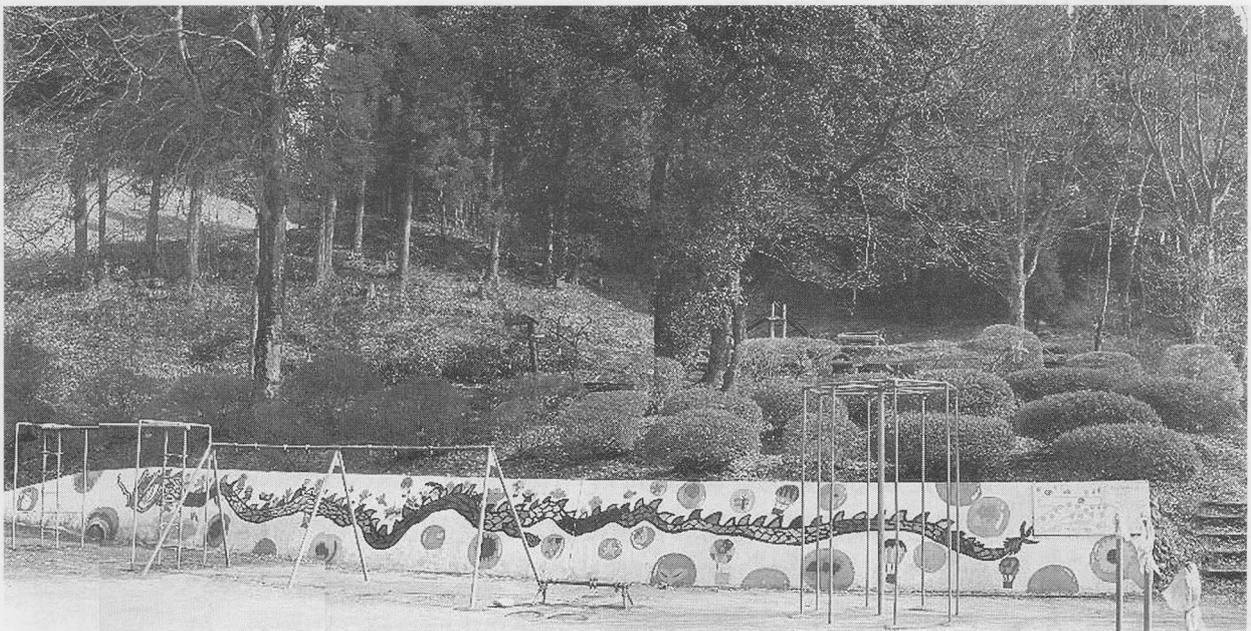
現在の「つつじヶ丘」は、元の植物園の前面に子どもの遊び場と、植物園の左側斜面に、ス



クロスカントリーコース

スキー場が加わってそう呼ばれています。遊び場には鉄棒、ブランコ、すべり台、ジャングルジム等の遊具があって、細長い広場になっています。広場の上段は植物園になっていて、2m位の段差のあるコンクリートで固めた土止めがあります。その土止めは白色のカラータタンに包まれ、龍の絵模様が描かれていました。子ども達の創作作品なのか、生き生きと表現されていました。また植物園の左側斜面には、昭和36年にできたというスキー場がありました。公園の隅に位置しているが、胴回り250cm位、樹高約30mの桜の老木が2、3本、狭い空間をひとり占めをするように枝を広げて立っている。他にもモミジ、ムラサキシキブ等の灌木が立ち並んでいる。元の植物園を3段階に分けると、下段はツツジの群生地で、中段は桜の木にも匹敵するブナ、トチノキなどの喬木が枝を広げて立っている。まだまだカシワ、エノキ、ミヤマハンノキ、シラカシ等が続いている。上段はクロベ、コメツガが元気である。以上13種類の樹木を並べてみたが、冬には2～3mの豪雪に耐え抜いて来た森林公園、100年を経たとは思われない程整然としたものだった。

グラウンドから案内板の下を通過して、クロスカントリーコースにつながる通路は、春になると満開のツツジの花を眺め、春から夏にかけては、新緑地帯の浄化された空気を胸いっぱい吸い込み、秋になるとモミジの紅葉を楽しんで散策できる道程なのです。この公園は生徒達が自然と交わり遊び、自然とふれ合って身体を鍛え、自然を観察して学ぶことのできる場所なのです。クロスカントリーとは、山野を横断して走る競技であるといわれていますが、昭和46年～48年、当時校長先生をしておられた丸山先生のお話しでは、施設も整備され、子ども達が利用する様子を見て、誰いうとなく自然と伝わっていったのが「つつじヶ丘」という名前だったと思われると言っておられました。模範村として村政に携わった当時の小野村長の偉業が偲ばれます。



つつじヶ丘公園

民俗資料館平成20年度の歩み

1. 入館者数

平成20年4月

）

平成21年3月

	市内	市外	計	団体
大人	246名	481名	727名	1
小中学生	388名	65名	453名	10
計	634名	546名	1,180名	11

2. 資料収集の状況

本年度は4名の方から25件56点のご寄贈を賜り御礼申上げ、紹介させていただきます。

〈寄贈品名〉

写真（蒲鉄のお別れ列車出発式）・せいろ・櫃・剥製（雉）・化石（貝）・熔岩（三原山）・真綿・モンペ・加茂縞・単衣・下駄・手甲・羽織 等

〈寄贈者ご芳名〉

飯岡 政男 様・久保 登 様・川崎チエ子 様・岡田 倉吉 様

3. レファレンス・サービス及びアンケート調査（民俗資料館への問合せ）

① レファレンス・サービス（52件）

- ・「鍬・鋤・犁について資料がほしい」
- ・「媼杉（ババスギ）のあった場所はどこか」
- ・「2～3年かけて信濃川周辺の地質を調べているが、加茂郷土誌第16号の口絵と解説文のコピーが欲しい」
- ・「先祖である市川太郎助家について調べたい」
- ・「父の出身地である七谷の石動神社の歴史と天井画について知りたい」
- ・加茂西小学校児童からの「昔の家や生活にかんする25の質問」
- ・加茂市内の山城の遺跡について
- ・加茂西小学校児童からの「農作業についての18の質問」
- ・「加茂の建具職や加茂を背景とした小説を書きたいが、なにか資料はないか」
- ・「先祖が加茂出身の小林氏であるが、その小林氏について知りたい」
- ・加茂における「天神講について知りたい」
- ・「須田の北瀧村から北海道江別へ入植した小林氏に付いて知りたい」等

② アンケート・調査・依頼（54件）

- ・にいがたバリアフリーガイドマップに係る調査への協力のお願（調査）
- ・博物館総合調査ご協力のお願（アンケート）
- ・美術品の輸送時に与えるストレスの解明と防寝台の開発について（アンケート）
- ・埋蔵文化財関係調査に伴う職員の派遣依頼について（依頼）
- ・複数の市町村にまたがる遺跡の有無について（照会）
- ・出土品の文化財認定と県帰属文化財の保管に関する調査について（依頼）等

4. 博物館実習

- ・8月14日～8月22日 新潟大学人間教育科・人文学部 3名

5. 館外活動

① 古文書講座

毎年恒例の古文書講座も26回をかぞえ、益々ご好評をいただいています。加茂山の静寂な雰囲気の中で歴史をひもとくことも楽しみなことです。

日時 9月2日 9月9日 9月16日 9月24日 9月30日

各火曜日 午後7時～午後8時30分

会場 加茂市民体育館内 加茂市公民館 第1研修室

講師 加茂市文化財調査審議会委員

溝口 敏磨 関 正平 佐藤 賢次 長谷川 昭一 丸山 朝雄の各氏

参加者数 延べ175名

内容

第1回「侍になった市川家の人々—市川家・森田家の資料から」 関 正平氏

- 1) 信濃川筋開発の件で江戸の評定所に出頭し、約2ヵ月後裁定が出て、科料5貫文を支払った後に帰る。翌天保三年正月、市川正太郎は病気を理由にして、息子正平次に家督を譲り、退役・隠居の願いを出すとともに、正平治から家督相続の届けが出される。さらに正太郎は水戸の支藩 宍戸藩士となる。

第2回「明治初年の大小区の論議—殖産興業をめぐる—」 溝口 敏磨氏

- 大小区会の議論で次のような見解がだされた。最近家職を忘れ、新規な仕事をし破産する者が多いが、学校の先生・村の主立ち・両親が相談してその若者であった仕事を世話してやる。また子供は尋常小学校に入れて、優れた子供には新潟の上級学校へ入校させると良い。

第3回「『寛政三年加茂組議定』を読む」 佐藤 賢次氏

- 組中の庄屋が互選で年番総代を決めるが、庄屋たちの手当て、例えば代官所での宿泊・供の者の宿泊代・継馬の代金・代官所や江戸へ出張した時の手当てなど、細かいところまで百姓達が決め、庄屋達に余分な支払いをしないように取り決め、村方の出費を抑えるようにした。

第4回「『県立精練の誘致』についての坪谷善四郎の書簡を読む」 長谷川 昭一氏

- 奥田君や元園町の関様へ連絡したり、石黒男爵へ陳情したときの「地方のことは関係しないので新潟県知事に話すよう」に言われる。

また、新潟県知事を探したり、工業試験所に探りを入れたりしている。

第5回「後須田の名主 八十八の事」 丸山 朝雄氏

- 紀州の殿様に招かれて、紀州の西浜御殿へ参上し、色々な御殿やお庭を案内してもらったり、殿様からお褒めの言葉をいただいた。また、新発田で井戸を掘ったが、後須田で掘ったようには、あまりうまくいかなかった。



丸山朝雄氏

② 歴史講演会

日時 11月8日(土) 午後2時～午後4時
会場 加茂市民体育館内 加茂市公民館 第1研修室
講師 加茂市文化財調査審議会委員

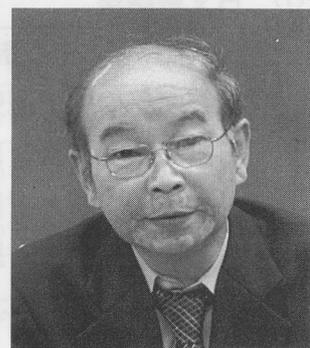
佐藤 賢次氏

演題 「越後にもあった関ヶ原の戦い
—慶長五年越後一揆と加茂—」

参加者 62名

講演内容

- ・慶長三年の上杉氏の会津移封。そのあとに堀氏とその与力として、溝口氏・村上氏の越後入封。
- ・徳川家康の会津攻めに対し、上杉恩顧の地侍・百姓などが越後各地で決起する。
- ・領主である溝口氏から加茂組に対し、新発田城の堀の補修のための動員がかかる。
- ・一揆勢は三条城攻撃に失敗し加茂へ撤退し、直江兼続は加茂へ援軍を送る。
- ・関ヶ原の戦いが終わると越後一揆も収束に向かう。ここで兵農分離が進展するが加茂町の浅野家には武具の所持を認める（反一揆の手柄と思われる）



佐藤 賢次氏

③ 特別歴史講演会

講師には新潟県文化財保護連盟理事で越後上杉氏研究の第一人者であり著書も多数にのぼり、講演も多くなさっている先生に、大河ドラマの主人公でもある直江兼続についてテレビドラマの収録の裏話も交えながらお話いただきました。

日時 2月21日(土) 午後2時～午後4時
会場 加茂文化会館 小ホール
講師 越後一ノ宮居多神社 宮司 花ヶ前盛明氏

演題 「直江兼続と天地人」

参加者 234名

講演内容

- ・直江兼続は永禄三年（1560）六日町坂戸城下で、武門の家に生まれて、17歳で初陣を飾る。
- ・兼続19歳の時に、上杉謙信が死去。兼続は謙信から何を学んだか。それは次の2つのこと。
 - 1、戦いの仕方。正々堂々の戦いをする。後年関ヶ原の時に徳川家康の背後を突くことを避ける。
 - 2、「義」（節目）の心を学ぶ。謙信が佐竹氏に出した手紙に「依怙で戦いはしない」と返事をしている。
- ・上杉鷹山が師と仰いだ兼続の経済政策は、金銀山の開発・あおそ、楮、桑、紅花等の栽培の奨励・農業の手引書を出版し農作物の増産を図る等経済積極策をとる。



花ヶ前盛明氏

加茂市の遺跡 平成20年遺跡発掘調査について

加茂市教育委員会社会教育課係長 伊藤 秀和

本年の遺跡調査は、開発事業に関連した試掘・確認調査が2遺跡、4地区を対象に行われた。

1. 陣ヶ峰遺跡・陣ヶ峰北遺跡—縄文・古代—

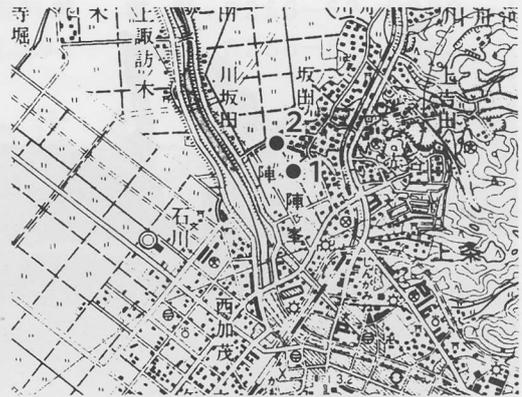
所在地 加茂市陣ヶ峰・千刈三丁目地内

調査面積 約15㎡・約15㎡

調査期間 平成20年6月12日・10月9日

調査原因 集合住宅建設

調査の概要 陣ヶ峰遺跡、陣ヶ峰北遺跡ともに丘陵裾部～沖積地にかけて立地する遺跡で、縄文土器や古代の土器が採集されている。陣ヶ峰北遺跡では、過去に小規模ながら発掘調査が行われ、多量の縄文土器が出土している。今回は、開発予定地における遺跡の内容を確認するため、対象地内に概ね2.0×3.5mのトレンチを4ヶ所掘削し、遺構・遺物の確認を行なった。陣ヶ峰遺跡では、遺構、遺物ともに出土しなかった。陣ヶ峰北遺跡からは、現地表下1mほどの砂質土層から、1点であるが平安時代の須恵器甕の破片が出土した。遺構は確認されなかったが、周辺に古代の集落が存在することが推測される。



1 陣ヶ峰遺跡 2 陣ヶ峰北遺跡
調査対象遺跡位置図 S = 1/50,000



陣ヶ峰遺跡 確認調査



陣ヶ峰北遺跡 確認調査

2. 天神林地区（稲荷浦遺跡・横土居遺跡・西吉津川遺跡）—古代～中世—

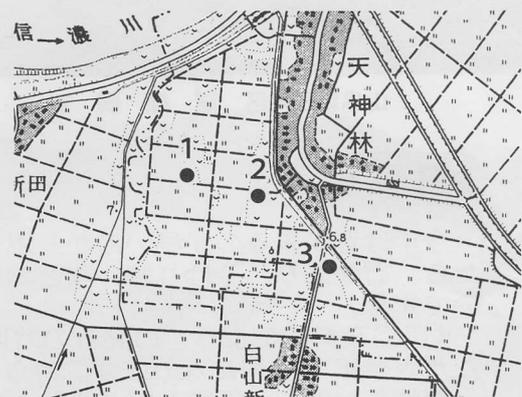
所在地 加茂市天神林地内

調査期間 平成20年10月4日～11月26日

調査原因 吉津川地区県営ほ場整備事業

調査の概要 ほ場整備事業の暗渠工事に伴う掘削工事の際に立会い、遺構の確認と遺物の採集を行った。

稲荷浦遺跡、横土居遺跡、西吉津川遺跡はともに下条川左岸の沖積地に位置する。これまでもほ場整備



1 稲荷浦遺跡 2 横土居遺跡 3 西吉津川遺跡
天神林地区調査対象遺跡位置図 S = 1/25,000

事業に伴い、確認調査が行われてきた。

今回の調査では、稲荷浦遺跡からは全く出土遺物はなかった。横土居遺跡からは、中世の青磁が1点出土した。西吉津川遺跡からは、古代～中世の遺物が多く出土し、従来の遺跡推定範囲が超えて遺跡が存在することが明らかとなった。



西吉津川遺跡 確認調査



西吉津川遺跡 出土遺物

3. 山島新田・川西・鶴森地区

所在地 加茂市山島新田・川西・鶴森地内 調査面積 約130㎡・約63㎡・約53㎡

調査期間 平成20年5月13日～15日、11月6日～7日、平成21年1月29日～30日

調査原因 信濃川下流災害復旧等関連緊急事業

調査の概要 信濃川右岸、左岸の両堤防外区域を対象地とし、概ね2.0×3.5mのトレンチを合計34ヶ所掘削し、遺構・遺物の確認を行なった。数ヶ所で近現代の陶磁器が出土したが、それ以前の遺構、遺物は発見されなかった。液状化現象に伴う、噴砂の痕跡が目目される。



山島新田地区 試掘調査



鶴森地区 試掘調査

編集後記

今年は春が来るのが早いのかと思っていたら、3月の下旬に急に寒くなったとおもったら、雪が降り、やはり寒いなどおもっていたら、直に雪が消えました。けれども、寒いですね。

「民俗資料館だより」の発行の時期になりました。多くの人達のご指導・ご鞭撻をいただき今年で16号になります。みなさまのご支援の賜物と感謝しております。

お忙しい中を、玉稿を賜りました中野保栄氏（加茂市文化財調査審議会委員）に厚く感謝いたします。